OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	センター設立20周年にあたって
Author(s)	岩根, 久
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2020, 21, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83268
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻　頭　言

センター設立20周年にあたって

サイバーメディアセンター　言語教育支援研究部門
招聘教授　岩根　久

サイバーメディアセンターが創設 20 周年を迎えた 2020 年 4 月は、新型コロナウィルスの影響が深刻になってきた時期にあたります。人間で言えば、成人式を迎える年齢でもあり、通常の年であればお祝いの行事などの企画があったことでしょう。しかしながら、ご存じのように、どの部局もこの事態に全面的に対応しなければならない状況となり、お祝いどころではなくなりました。

筆者は、2020 年 3 月に本学言語文化研究科を退職しました。在職中は共通教育のフランス語、言語文化研究科でのテキスト情報処理、文学研究科でのフランス・ルネサンス文学の授業などを担当しておりました。退職に際して、サイバーメディアセンターの言語教育支援研究部門からお声をかけていただき、現在は同部門で微力ながらサポートを担当させていただいています。

この 20 周年を機に、これまでお世話になったサイバーメディアセンターに対する謝意を込めて、なにかお話をひとつ、たとえば、疫病が猖獗を極めたフィレンツェの町が舞台背景となる、ボッカッチョ『デカメロン』の顰みに倣い（疫病というネガティブな状況が、イタリアルネサンスを象徴するクリエイティブな作品を生み出す契機となったわけです）、思わず微笑みを誘うような気の利いたお話でも披露したいところですが、筆者にはとうていその才はありません。そこで、ごく自然にできることとして、20 年前を振り返り、「サイバーメディアセンター」という名称について考えてみたいと思います。

まずは、20 年前に遡る前に、サイバーメディアセンターのホームページで、下條真司センター長のメッセージを見てみましょう。

「サイバーメディアセンターは平成 12 年に様々な情報通信メディアを基礎とした新たな形態での人間の知的活動、すなわち、新たな思索、発見、創造を促し知的活動の大規模化、グローバル化を促すサイバースペース、サイバーソサイエティを大阪大学のキャンパス内に実現することを目指して設立されました。」 (https://www.cmc.osaka-u.ac.jp/?page_id=4)（下線は筆者による、以下同様）

センター長の言葉には、創設以来 20 年間変わることのない設立の理念が形をとって現れています。

『サイバーメディア・フォーラム』創刊号の巻頭言で、当時の西尾章治郎センター長（現大阪大学総長）は次のように書いておられます。

「……ディジタルコンテンツから、情報メディア（データ）そのもの、ハードウェア、ソフトウェア、通信メディアなどの多様なメディアを基盤とした、新しい形態での人間の知的活動を促進する、すなわち、新たな思索、発見、創造を促し、知的活動の大規模化、グローバル化を促すサイバースペースあるいはサイバーソサイエティをキャンパス内に構築することを目指します」(No.1, Sep. 2000, p.1)

さらにページを読み進めると、「サイバーメディアセンター設立主旨と経緯」(pp.5-10)という文書があり、そこには次のように記されています。

「……情報メディア（データ）そのもの、ハードウェア、ソフトウェア、通信メディアなどの多様なメディアを基盤とした、新たな思索、発見、創造を促し、知的活動の大規模化、グローバル化を促すサイバースペースおよびサイバーソサイエティの構築を目指します。ここに「サイバーメディア」センターの名前の由来（つまり、サイバースペース、サイバーソサイエティなどの「サイバー」とマルチメディアの「メディア」を併せた名前）があります。」(p.6)

このように、「サイバーメディアセンター」という名称の由来が、上の文書に明示的に示されています。この文書は無署名ではありますが、西尾センター長をはじめとしてセンター設置に関わった方々の知恵

の結晶であると思います。

ところで、サイバースペース（cyberspace）やサイバーソサイエティ(cybersociety)に含まれているサイバー(cyber)という接頭辞は、20 世紀の半ばくらいから存在する言葉、サイバネティックス(cybernetics)からの逆成(back-formation)によって成立した接頭辞で、電脳（コンピュータ）・電網（ネットワーク）に関連する語を生成します。サイバネティックスからは筆者の世代にとっては懐かしいサイボーグ(cyborg: cybernetic organism)という言葉も造られています。

上記の cybernetics は、フランス語では cybernétique になりますが、その源流を辿れば、産業革命を経て発展し続けている諸科学を統合的にとらえようとする 19 世紀の思潮の中で、電流の単位にその名を残すフランスの科学者アンペール(André-Marie Ampère, 1775 - 1836)が唱えた概念です。

「私は[この学問分野]を ギリシア語の κυβερνητική に基づいて Cybernétique と命名する。このギリシア語は、操舵術というごく狭い意味で用いられていたが、やがて、ギリシア人自身の間でも、統御の技術一般を指す、広義の意味で使われるようになった。...je nomme [cette science] *Cybernétique*, du mot κυβερνητική, qui, pris d'abord, dans une acception restreinte, pour l'art de gouverner un vaisseau, reçut de l'usage, chez les Grecs même, la signification, tout autrement étendue, de l'*art de gouverner en général.*」(André-Marie Ampère, *Essai sur la philosophie des sciences, ..., seconde partie*, Paris, Bachelier, 1843, p.141.)

アンペールは cybernétique を「統治の学」とし、政治学の範疇にあるものと位置づけていました。それから約 100 年後、アメリカの科学者ウィーナー(Norbert Wiener, 1894 - 1964)が、新たに cybernetics を提唱します。

「機械においてであれ、生命体においてであれ、制御通信理論の全領域をサイバネティックス(Cybanetics)と呼ぶことに我々は決めた。これは、ギリシア語の κυβερνήτης、操舵手を意味する言葉から作ったものだ。We have decided to call the entire field of control and communication theory, whether in the machine or in the animal, by the name *Cybernetics*, which we form from the Greek κυβερνήτης or *steersman.*」(Norbert Wiener, *Cybernetics: or control and communication in the animal and the machine*, The Technology Press, John Wiley & Sons, Inc., New York; Hermann et Cie, Paris, 1948, p.19)

語の形態が、英語で cybernetics フランス語で cybernétique となるのは、英語で物理学が physics、フランス語で physique となるのと同じ理由ですが、興味深いのは、アンペールがギリシア語の κυβερνητική（操舵術）に基づいて新たな語を創り出したのに対し、ウィーナーが語源を求めたのは κυβερνήτης（操舵手）だったということです。

学術名の語源となるギリシア語の語尾は、～学(術)を表す-ικα, -ικη となるのが一般的ですが、ウィーナーは執筆当時アンペールのことは念頭になく(cf. *The human use of human beeings...*, 2nd ed., 1954, p.15)、英国の科学者マクスウェル(James Clerk Maxwell, 1831 - 1879)の論文タイトルへの想いがあって、κυβερνήτης というギリシア語を選んだようです。

「この用語を選んだのは、1868 年にクラーク・マクスウェルによって発表されたフィードバックの仕組みに関する最初の重要な論文が、「調速機について(on governors)」であり、また、この governor という語はギリシア語の κυβερνήτης から造られたラテン語に由来するということを認識しておきたいからだ。In choosing this term, we wish to recognize that the first significant paper on feed-back mechanisms is an article on governors, which was published hy Clerk Maxwell in 1868, and that governor is derived from a Latin corruption of κυβερνήτης.」(ibid. p.19)

以上、サイバーはサイバネティックスに由来し、サイバネティックスには、「舵取り」「コントロール」という意味があったことをお話しました。

サイバーメディアセンターは、新型コロナウィルスの経験を活かし、教育や研究への新たな貢献を目指しています。今まさに、サイバーメディアという語に「創造的な成果を生み出すために、情報伝達メディアの舵取りをする」という新たな意味を付け加えてもよいのではないかと考えます。